THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2025.9／SEPTEMBER
No.423
JSQCニュース

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506　FAX.03 (5378) 1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス　JSQC規格JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」の改正
2-私の提言　「成長する場」を設計する
2-ルポルタージュ　第449回事業所見学会ルポ
3-ルポルタージュ　第146回クオリティトークルポ
3-ルポルタージュ　第154回講演会ルポ
4-総会告知／行事案内／JSQC選書新刊／教員公募／会費請求

JSQC規格JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」の改正

原案作成委員会 委員長　安藤　之裕

規格改正の経緯

当学会が発行している規格（JSQC規格）は、５年ごとに見直しを行い、継続､改正または廃止を決めています。

JSQC-Std 32-001「日常管理の指針」の初版は、2013年に発行され、５年後の2018年には｢継続｣となりました。本規格は、従来色々な議論や解釈があった日常管理の基本をまとめたものとして高い評価をいただき、幾つかのセミナーで基本テキストとして採用されるなどの結果、2025年７月時点で5131部を売り上げ、更に英語版も発行され、この種の規格としては異例の発売部数となりました。また、本規格の主要部分は日本工業規格JIS Q 9026：2016マネジメントシステムのパフォーマンス改善－ 日常管理の指針にも採用されています。このように、本規格は当学会の一連の規格の初期の規格として大成功した規格であり、その後のJSQC-Std 33-001：2016「方針管理の指針」などの一連のJSQC規格の礎となったと評価されています。

このように評価の高い規格ではありましたが、発行後10年を経て、以下に述べるいくつかの改正の必要性が指摘されたために、今回改正した次第です。

主な改正内容

今回の主な改正点は以下の通りです。

⑴サービス業務への対応

2013年の発行以来、日本の産業構造の中で、サービス業務のウェイトが高くなってきています。旧版では日常管理の原点として、製造業の大量生産のプロセスの例を用いた表現となっていましたが、今回は、飲食店における接遇業務というサービス業務の事例を用いて製造部門以外の皆様にもわかりやすい表現といたしました。

⑵DXへの対応

近年のDXは著しく進化しており、日常管理の姿を大きく変えようとしています。旧版では主に紙媒体を管理ツールの基本媒体としていましたが、そこにDXやさらにはAIの活用により日常業務自体の変革とそれに伴う管理方式の進化を示唆することとしました。

⑶「日常管理の進め方」の構造を改め加筆しました。

この章は、ある業務に対する日常管理の進め方を具体的に説明する章ですが、10年間の蓄積を踏まえて多くの点について加筆訂正しました。

特に、誤解の多い「管理項目」については尺度であることを明記し、例を加えて説明しました。また、混乱の多い「異常」と「不適合」の違いについて明確化し、異常を適切に検出することが日常管理の根幹の一つであることを明記しました。

⑷上位管理者の役割を大幅に改正しました。

部長などの上位管理者は、ともすると日常管理に関心が無く、それが現場の日常管理の形骸化・空洞化・劣化の原因となることが、「JSQC-TR12-001：2023テクニカルレポート品質不正防止」でも指摘されています。そこで、本規格ではそのような上位の管理者の日常管理における役割として、経営資源の確保、使命・役割と管理項目･管理水準の体系化、異常への対応、ならびに日常管理の実施状況の確認と指導があることを明記して､その重要性を強調しました。

謝辞

今回の改正も、原案作成委員、審議委員、事務局並びに理事会メンバー、更にはパブリックコメントにコメントをお寄せいただいた多くの皆様のお力で完成しました。これらの皆様のご尽力に深く感謝差し上げるとともに、本規格が多くの皆様の日常管理にご活用いただき効果を上げていただくことを期待します。

● 私 の 提 言 ●

「成長する場」を設計する

東洋大学　**野中　誠**

私は長年にわたり、大学においてPBL（Project-Based Learning）型教育を実践している。学生たちは実務を模した課題にチームで取り組み、得られた情報をもとに問題を発見・定義し、方法論を駆使して提案をまとめる。最後には「プレゼンテーションバトル」の場を設け、全員が真剣に議論する。

この経験を振り返ってみると、知識やスキルの伝達ももちろん必要だが、「学生が成長する場」をいかに設計するかが大切であると感じている。最初は小さな成功体験を積み重ねて自己効力感が得られることを重視するが、次第に課題のハードルを上げていき、これをチームの力で乗り越えていく。プレゼンバトルを設けることで学生の内発的動機づけを促し、細かな工夫を随所に散りばめながら「成長する場」を継続的に改善している。学生同士が互いに刺激を受け合い、視野を広げていく姿を目にするのは教員として大きな喜びである。

「成長する場」の設計は、大学教育だけでなく企業活動にも通じる。品質管理や改善の取り組みも、目の前の課題を解決するというプロセスを通じて、参加する人々全員が成長できる場としてデザインすることが、組織全体の質の向上につながると考えている。改善活動はややもすると形骸化しがちな側面もあるが、参加者の成長を後押しする仕掛けとして位置づけたい。組織としての成果と、組織および管理者を含めた個々人の成長のベクトルを揃えることは容易ではないが、参加者の内発的動機づけに働きかける取り組みを心がけたい。

近年は生成AIのような新しい技術が次々と登場し、知識や解法に簡単にアクセスできるようになった。その使い方次第で、参加者の成長を促すツールにも、逆に阻害するツールにもなり得る。こうした技術と向き合いながら、「成長する場」をどう進化させるかが問われている。

学会は、「成長する場」を学会コミュニティおよび社会に提供する器である。世代や立場を超えて人々が集い、互いに学び合い、新しい価値を見出す。学会として、このような場のデザインと継続的な改善を実践していくことが、社会から期待されていることだろう。

第449回 事業所見学会 ルポ

シンフォニアテクノロジー株式会社　豊橋製作所

令和7年4月23日㈬に、シンフォニアテクノロジー株式会社 豊橋製作所にて「人を大切に思う気持ちやお客様の心に響く技術で未来を創る 100年企業を現地現物で確認する」をテーマに、17名が参加しました。同社は1917年に創業し、電気制御技術をコアに、半導体搬送装置や宇宙ロケット用の電装品、振動搬送機器等、独自のモーションコントロールとエナジーコントロール技術を駆使して、多彩な分野で12事業の製品を多品種少量生産しています。

今回は、トップメーカーとして高い信頼を得ている振動コンベア等の製造工程、及び産業インフラシステムにおける電磁力を応用した技術で業界をリードするサブマージドモーターの製造工程を見学させていただきました。

初めに、総務部グループ長の山本様より、会社及び工場のご説明をいただき、続いて豊橋製作所長の元吉様から、製作所内の品質意識調査アンケート、及び現場の意見の吸上げと改善サイクルの取組みをご紹介いただきました。この取組みにより、品質確保と不正防止が図られるだけでなく、製作所で働く方々の意識の高さも伺えました。

次に、副製作所長の臼井様からは、主力事業の一つで今後の成長ドライバーとなる半導体関連事業のクリーン搬送システムとその品質状況についてご説明をいただきました。「半導体には一旦認証したら申請なしには変えてはいけない」という考え方に基づき、お客様の多様なニーズに応える為に、製品毎に型番を付与し、図面管理や製作手順の整備を行っています。更に、国内外の取引では定期的な品質監査によるお客様第一の対応により、ロードポートという装置では世界トップのシェアを獲得しています。

また、半導体装置から大型設備まで、多品種少量生産に対応できる多彩なテクノロジーは、人材で支えられています。特に、マイスター制度等の人の技能と機械・設備を融合した現場は非常に興味深く、現地・現物で学べる貴重な機会となりました。

最後に、この見学会を開催してくださったシンフォニアテクノロジー株式会社の皆様に心から感謝申し上げます。

内藤　貴彦（トヨタ自動車㈱）

第146回 クオリティトーク ルポ

カイゼンは“人づくり”です

2025年4月22日㈫に、第146回クオリティトークがオンラインで開催された。「カイゼンは“人づくり”です」をテーマに、川原洋一先生（ＡＮＡビジネスソリューション㈱）にご講演をいただいた。

前半は、ヒューマンエラーの話だ。ヒューマンエラーが起きても、「事故にならない仕組み」を持っているという。エラーのメカニズムや影響について、エラーチェーンを切る事の大切さについて触れた。

後半、ヒューマンエラー対策×カイゼンから、「ANA流の気づく力を持った人づくり」の本題に入る。

カイゼンは、「原状に満足せず、今よりもっと良くしたい」意志を持った行動であり、「自ら課題に気づき、自ら対策し、改善していく」ことがポイントである。

一生懸命に、仕事をしているからこその“気づき”であり、“気づきをカイゼン”に、改善したことから、“新しい気づき”が生まれ、更に、カイゼンが進むのだ。この「気づく力」を持った「人づくり」が、ANA流のアプローチであるという。課題を探すことから始めるのではなく、目的を明確にすることの大切さを、改めて、問う。知識×体験＝知恵であり、知識だけ詰め込んでもカイゼンは出来ない。他の人がやった事を、見て聞いて、なるほど！　そして、使えるようになる。それが、知恵だ。一人ひとりの“気づき”を活用する仕組み（ヒヤリハットやカイゼンデータベース）についても紹介された。

ヒントは自分の「足元」に転がっている。答えは「ここ」にある。第一人称（自分ごと）として捉え、より楽に、安全にするために「カイゼン」に取り組む。推進者の育成、そして、活用する仕組み作り。企画室が取りまとめ、戦略的に取り扱っている本気さが、うまく融合しているのだと感じた。

興味を持たれた方は、川原先生が執筆した書籍：『ＡＮＡのカイゼン』、かんき出版（2024）を手に取ってみてはいかがでしょうか？

上條　秀昭（（公財）筑波メディカルセンター）

第154回 講演会 ルポ

フレームワークに囚われないパワートレインアジャイル開発の道程

2025年5月12日㈪に日本品質管理学会第154回（中部支部第65回）講演会がオンラインで開催された。演者は竹内伸一氏（トヨタ自動車㈱/パワートレイン機能・性能開発部　基盤技術開発室）で、スクラム開発、モブプログラミングを用いて、品質保証とスピードアップの両立を実現するアジャイル開発手法についてのご講演であった。ちなみに、筆者は知らなかったのだが、パワートレインとは自動車の原動機～変速機～タイヤの直前までの総称であり、この分野におけるトヨタのアジャイル開発の道程を呈示された。アジャイルとは「すばやい」「柔軟な」という意味と理解しているが、事前準備としてまずチームをつくり、働き方合意、プロダクトゴールの明確化を進め、1～4週間の短いスプリント（開発サイクル）を定め全員でスクラムを組んで実装し、デイリースクラム（毎日のミーティング）を行い、AIを使ったMOBでの開発実践を行っていく。アジャイル開発を機能させるには、リーダー・マネージャーのマインド変革、内外緩衝などを経てアジャイル活動の種々の障害を取り除くなど、言うは易く、実行するのは難しいように筆者には思われたが、トヨタはこれを実装して成果を上げておられる。要求事項の複雑性の高低、技術的複雑性の高低の2軸からつくられるマトリックスで、それぞれの要素から「混沌」「複雑」「やや複雑」「簡単」と分野を分けた場合、アジャイル開発は「複雑」領域に適しているとのこと。

アジャイルチームに参加するスタッフには、心理的安全性の確保が必要で、Humility（自らの能力の限界、脆弱性を認める）→Respect＆Collaboration（率直に意見交換・学び合う・相互信頼を高める）→Growth（自分自身であり続け、負担感なく自己成長を続ける）→Fearless（全体最適・全体発展に向けた挑戦を恐れない）というマインドセットのあり方に言及しておられ、これが重要なポイントかと思われた。

齊藤　雅也（総合犬山中央病院）

第55回通常総会

日本品質管理学会第55回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日　時：2025年11月15日㈯ 10：00～11：00
場　所：京都大学 吉田キャンパス

行 事 案 内

●第55回年次大会（本部）発表募集
日　程：2025年11月15日㈯
会　場：京都大学 吉田キャンパス
⑴申込期限
　発表申込締切：　9月24日㈬
　予稿原稿締切：10月16日㈭必着
⑵研究発表・事例発表の申込方法
　https://jsqc.org/55annual_cfp/

●第156回講演会（中部）
テーマ：ダイキンのデジタル時代におけるグローバルものづくり製造業の変革・挑戦
日　時：2025年9月25日㈭14:00～16:00
会　場：オンライン（Zoomミーティング）
講演者：今井 達也 氏（ダイキン工業）
詳細･申込：https://jsqc.org/156lecture/

●第153回講演会（東日本）
テーマ：「信頼」される学校給食づくり～業界No.1の東洋食品が取り組む品質管理～
日　時：2025年10月2日㈭10:00～12:00
会　場：日科技連 東高円寺ビル３階A研修室／オンライン（Zoomミーティング）
講演者：荻久保 瑞穂 氏（東洋食品）
詳細･申込：https://jsqc.org/153lecture/

●第12回科学技術教育フォーラム
テーマ：一人ひとりの輝きを引き出す“探究”を目指して－
日　時：2025年10月5日㈰13:00～18:00
会　場：統計数理研究所大会議室およびオンライン（Zoomミーティング）
プログラム：
　特別講演　デジタル学習基盤における学習指導要領の改訂－質の高い探究の実現に向けて－
　　田村 学 氏（文部科学省）
　講演１　STEAM等の教科等の特質を基にした探究の在り方
　　松原 憲治 氏（文部科学省）
　講演２　Mindsetを基盤とする探究と科学的問題解決法
　　鈴木 和幸 氏（日本品質管理学会）
　講演３　問題解決の日本社会への普及を目指して－総合的な探究の時間における実践を通して－
　　古谷 健夫 氏
　　（クオリティ・クリエイション）
　総合討論
詳細･申込：https://jsqc.org/12tqe_f/

●第149回QCサロン（関西）
テーマ：未解決課題（慢性不良）解決業務の質と生産性向上～『これからが楽しみですね』と言い合える業務プロセスの仕組～
ゲスト：清水 貴宏 氏
　　（パナソニックエナジー）
日　時：2025年10月7日㈫19:00～20:30
会　場：オンライン（Zoomミーティング）
詳細･申込：https://jsqc.org/149qcsalon/

●第55回年次大会（本部・京都）
日　程：2025年11月14日㈮･15日㈯
会　場：京都大学 吉田キャンパス ほか
プログラム：
11月14日㈮ 午後
　事業所見学会
　　Ａ：積水化学工業㈱滋賀栗東工場（滋賀県栗東市）
　　Ｂ：サントリー〈天然水のビール工場〉京都（京都府京都市）
　情報交換会（京都大学 吉田キャンパス）
11月15日㈯
　午前　通常総会／各賞授与式
　　会長講演
　　山田 秀（慶應義塾大学）
　午後　研究発表会/優秀発表賞表彰
申込締切：11月5日㈬
詳細･申込：https://jsqc.org/55annual/

事　務　局
JSQCホームページ：https://jsqc.org/

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書39」好評発売中

●JSQC選書39（168ページ）
　書名：モノづくりにおけるマネジメントへの誘い
　　体験的教材を用いた学び
　著者：竹本　康彦

判 型 等：四六判、並製本
定　　価：1,650円（税込）→ 学会員特典価格：1,320円（税込）
申込方法：https://jsqc.org/jsqcselection/

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

教員公募

職業能力開発総合大学校

募集人員	教授または准教授　１名
所　　属	職業能力開発総合大学校 品質管理・生産管理ユニット
研究分野	品質管理・生産管理（経営工学を基盤とした、品質マネジメント分野およびインダストリアルエンジニアリング分野）
担当科目	品質管理、生産工学概論、統計学、信頼性工学特論などを予定
着任時期	2026年４月１日
応募締切	2025年９月22日㈪
詳　　細	職業能力開発総合大学校 令和８年度教員公募 https://www.uitec.jeed.go.jp/topics/recruit/lf0uc80000001tqe.html

第55年度会費請求のお知らせ

第55年度（2025年10月1日～2026年9月30日）会費請求書を郵送いたします。

ゆうちょ銀行自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。

10月27日に引き落としいたしますので、ゆうちょ銀行口座の残高をご確認ください。